

# ノーモア・フクシマ 最高裁での判決を覆し 国の責任を認めろとせざるまで

8月17日、ノーモア・フクシマいわき市民訴訟上告審報告集会在衆議院第二会館多目的ホールにて開催されました。145人(東京土建54人)の参加で会場が埋めつくされました。午前中は最高裁前でスタンディング・アピール行動、議員要請行動、記者会見を行ない、午後から集会を開催しました。(文責、見出しも編集部)

## いわき市民訴訟集会

### 満員の会場で力強い訴え

いわき市民訴訟は2011年3月11日の東京電力福島第一原発の事故当時、いわき市に在住していた住民(1500余名)が原告となり、国と東京電力を被告として、事故による損害賠償(慰謝料)の支払いを求めている大規模集団訴訟です。



ノーモアフクシマ上告審報告集会(会場の様子)

最初に弁護団から訴訟の概要と現状についての報告がありました。原告の福島地裁いわき支部判決は、東電と国の責任を認定(2021年3月26日判決)しましたが、判決を不服として原告、被告の双方が仙台高裁に控訴しました。

仙台高裁は、2023年3月10日の判決で、東電の責任は認定したものの、国の責任は否定しました。

最高裁判決は、一方で、想定される津波の試算を受け、敷地高さを超える津波による施設の浸水を防ぐ対策を検討したにもかかわらず、経営利益を優先し、対策を先送りしたことにより重大な事故が発生したことで、東京電力を厳しく断罪しました。しかし、国が対策を命じても全電源を失って炉心溶融を起こす重大事故を防ぐことができたはずであるとは断定できないとして、国の責任を認めませんでした。

最高裁の不当判決を正すためにやはり最高裁で6・17判決を覆すしかありません。最高裁自身に責任を取ってもらうというところで、今回いわき市民訴訟を取り組むことになりました。

この後、各地の訴訟団が統々と高裁の判決を受け、最高裁に上告することも予想されるので、引き続き闘っていくこととなります。

東電に対しては、一定の責任に対し、損害の評価が増えましたが、東電は上告をしないという立場をとったので、原告も上告せず、国に対してのみ上告しました。したがって争点は、国の責任を否定した仙台高裁判決を覆すこととなります。

続いて日本環境学会理事長で、一橋大学名誉教授の寺西俊一さんから取り組みの報告がありました。そしてそれを許さないために、環境会議の関係者に呼びかけて、「ノーモア原発公害アピール」を宣言し広範な市民の結集を呼びかけました。国民的な運動を最高裁に向け、または政府に向けて、アピールしよう、11月17日ノーモア原発公害市民連総会結成を目指し現在奮闘しています。

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。

## 最高裁、国、東京電力 三位一体の癒着構造を指摘

続いて日本環境学会理事長で、一橋大学名誉教授の寺西俊一さんから取り組みの報告がありました。そしてそれを許さないために、環境会議の関係者に呼びかけて、「ノーモア原発公害アピール」を宣言し広範な市民の結集を呼びかけました。国民的な運動を最高裁に向け、または政府に向けて、アピールしよう、11月17日ノーモア原発公害市民連総会結成を目指し現在奮闘しています。

この3人の経歴を調査したところ、裁判長は退官後すぐ、最高裁第2小法廷には4人の裁判官がいて、その内3人が国に責任はないという判決を出しました。

この様な関係を綿密な調査と詳細な分析により、最高裁と特定の巨大法律事務所とのパイプを中心に、巨大法律事務所が、裁判所、国、企業の密接な癒着構造を形作っている事を明らかにしました。

東電の代理人が所属する巨大法律事務所へ天下ついでいます。他の2人の裁判長も、同じく東電と密接な関係する巨大法律事務所に関係しています。



一橋大学名誉教授 寺西俊一さん



後藤秀典さん

## 「裁判所まで関係とは」 皆で共有して力になれば

### 皆で共有して力になれば

東京土建からは石村副執行委員長があいさつを行いました。今の福島の実情は、署名や路上での訴えなどを行ない、少しでも力になればと述べました。

次に、原発事故訴訟を闘っている各地域の訴訟団が取り組むの報告を行い、地評、全労連など支援団体からは運動の報告と、原告団へ激励がありました。

最後に弁護団を代表して、小野寺利孝弁護士から、2つの署名と運動の呼びかけがありました。

最後に弁護団を代表して、小野寺利孝弁護士から、2つの署名と運動の呼びかけがありました。

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。



あいさつする石村英明副執行委員長

次に、原発事故訴訟を闘っている各地域の訴訟団が取り組むの報告を行い、地評、全労連など支援団体からは運動の報告と、原告団へ激励がありました。



小野寺利孝弁護士

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。

最後に小野寺さんは今後、島々の復興に国の責任を取らせることができると、述べました。

### 詰将棋の解答

- ▲1三桂△2二玉▲2一金△1三玉▲1四角成△同馬▲2二飛成まで7手詰。